

## 国立大学法人 福島大学

実践校：福島大学附属小学校

(全校児童生徒数：616人 実践研究の対象：1年次 第5学年101人，第6学年103人 2年次 第3学年103人，第4学年103人)

### ①実践研究の趣旨・目的

本校の実態として、わたしたちがくらす社会のよさを実感するのが難しかったり、社会をよりよくしようとする国民としての自覚が希薄であったりする傾向があった。コロナ禍における活動の制限等も相まって、社会で実際に起きている事柄を見せるための授業や教育課程の工夫が十分ではなかったという背景が考えられる。そこで、授業や教育課程の改善により、社会的事象を自分事として捉え、収集した情報を基に、よりよい社会を構想する子どもたちの姿を求めた。

### ②実践内容

#### (1) 福島大学での取組・工夫

##### ○ 実践授業における指導助言

1年次の実践授業，2年次の主権者教育公開授業に向けての企画運営会議や授業検討会において福島大学人間発達文化学類特任教授が指導助言を行った。先行研究や関連書籍を紹介して主権者に関する教育についての視野を広げるとともに，教材化の工夫について助言したことで，大学と小学校とが連携を深めて授業を構想することにつながった。

##### ○ 講師協力

第4学年「人々の健康や生活環境を支える事業」において，廃棄物の処理に関する研究をおこなっている福島大学人文社会学群経済経営学類教授が単元の中で講師として講話をおこなうとともに，授業の中で廃棄物処理に関するアドバイスをおこなった。専門的な見地から，廃棄物処理の現状や課題について解説したことで，子どもたちが社会への関わり方を考える契機とすることができた。

#### (2) 実践校での取組・工夫

##### ○ 主権者として求められる力を育成するための教育課程・授業づくり

第6学年社会科「政治」「国際」「歴史」の順序性を工夫した教育課程づくり，政治の働きへの関心を高める内容や社会への関わり方に関する系統性を意識した授業づくり

##### ○ 主権者に関する教育を充実させるための教育体制の整備

1年次には高学年（全学級），2年次には中学年（第3学年3学級，第4学年2学級）で社会科の教科担任制を実施

##### ○ 社会的事象を自分事として捉えるための校外学習やよりよく選択・判断できるようにするための外部人材の活用

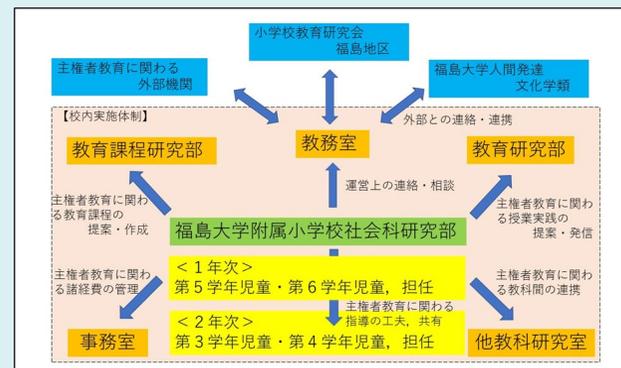
第3学年 福島消防署・福島市消防団見学，福島市消防本部との連携

第5学年 気仙沼漁港見学，農林水産省との連携

第4学年 あらかわグリーンセンター見学，福島大学との連携

第6学年 JICA地球ひろば見学，青年海外協力隊との連携

#### (3) 校内の実施体制・外部連携



※ 国語科，特別の教科道徳，特別活動，家庭科においても主権者教育に関する実践をおこなった。

### ③実践の具体事例【福島大学附属小学校第3学年】

【単元名】安全なくらしを守る人々とわたしたち～福島市を火事から守れ！～（3）

【単元目標】消防署等の施設・設備等の配置，緊急時への備えや対応等に着目して，見学・調査したり，地図等の資料で調べたりして，まとめ，関係機関や地域の人の相互の関連や従事する人々の働きを考え，表現し，消防署等の関係機関は，地域の安全を守るために，相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや，関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解できるようにする。また，主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や，学習したことを基に地域社会の一員として，地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできること等を考えようとする態度を養う。

時間	単元の指導計画	
	社会科	関連付けた他教科等
	「火事から安全なくらしを守るために，だれがどのような取組をしているのかな？」	
1.2	学習問題をつくり，予想を基に学習計画を立てる。	
3.4	校舎内外の消防施設・設備を調べ，白地図にまとめる。	特別の教科道徳
5.6	福島消防署を見学し，消防署や関係機関の働きを調べる。	
7	少年消防クラブや「消防体験フェア」の資料から，地域の人々との協力について調べる。	
8	学習を振り返り，さらに調べることについて話し合う。	
9	消防団屯所を見学し，地域の人々との協力について調べる。	
10	火事から安全なくらしを守るための働きをまとめる。	
11	自分たちに協力できることについて話し合う。	※ 道徳で補充・深化・統合を図った。

**社会科  
第11時  
「自分たちに協力できることについて話し合う」  
授業の概要**

**専門家や関係諸機関等との連携・協働**

＜概要＞

学習したことを基に，火事から安全なくらしを守るために，自分たちに協力できることを福島市消防本部の方々と一緒に考える授業。

＜指導上の工夫＞

○（小）社会的事象を自分事として捉え考えさせる教材や学習活動

- ・ 社会に見られる課題に関する消防本部の方からの動画
- ・ 消防本部の方と共に，協力できることを話し合う活動
- ・ 火災予防に関する家庭の実態アンケート
- ・ 地域の一員として，協力できることを自分の言葉でまとめる活動

○社会科と他教科等との連携

- ・ 単元「安全なくらしを守る人々とわたしたち」の学習終了後に，道徳「規則の尊重」の授業を位置付け，社会科における「法やきまり」の理解を補充・深化・統合した。

- ・ 福島消防署，福島市消防団第4分団と連携を図り，見学学習をおこない，その中で地域社会に見られる課題や協力の必要性について話をいただいた。
- ・ 福島市消防本部と連携を図り，授業でのアドバイスをいただくとともに，「ふくしま防災体験フェア」，火災予防運動で協力して活動をおこなった。
- ・ 福島市立佐倉小学校と連携を図り，少年消防クラブの教材を作成した。



【単元評価】

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を基に「知識・技能①②」「思考・判断・表現①②」「主体的に学習に取り組む態度①②」の観点で作成した評価規準を基に達成状況を評価し，指導に生かした。文部科学省『「主権者として求められる力」を子供たちに育むために』で示される主権者教育で育成を目指す資質・能力を分析の参考にした。

④取組の成果や効果・課題 ～「よりよい社会の実現を視野に，課題を主体的に解決しようとする態度に関するアンケート」結果等から～

- 「これからの社会がよくなると思う話し合いをしていますか」という質問に「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が75%から93.5%に増加し，「自分と地域や社会はつながっていると思いますか」「地域や社会がよりよくなってほしいと思いますか」という質問に「当てはまる」と答えた児童が68.8%から73.3%，93.8%から100%に増加した。
- 学習後に「ふくしま防災体験フェア」を見学したり，スタッフとして参加し消防本部の方々と共に防火を呼びかけたりと，協力できることを行動に移す子どもの姿が見られた。
- アンケート結果から「地域や社会をよりよくなるために何をすべきか考えたことがありますか」という質問については，学習前後とも81%と変容がなかった。授業の中で，地域や社会をよりよくなるために何をすべきかを考えていることの価値を自覚できるようにするための工夫が必要であった。